

2022 年度 NGO スタディプログラム最終報告書

提出日	2023 年 1 月 31 日		
氏名	仲 誠 一		
所属団体(正式名称)	バヌアツ・ナバンガ ピキニニ友好協会		
派遣タイプ	実務研修型/ 研修受講型（集合型・オンライン型）		
研修国	バヌアツ共和国		
受入機関名	ヴィラ SDA 小学校 サントイースト小学校		
研修期間	2022 年 9 月 27 日～10 月 31 日	研修日数	34 日間
研修テーマ	日本とバヌアツのオンライン交流事業のホームの立ち上げ		

1. 導入

1-1 研修前の問題意識

バヌアツ・ナバンガ ピキニニ友好協会代表仲誠一は、2005 年～2007 年 JICA シニアボランティア観光隊員として、バヌアツ共和国に赴任。

『バヌアツ・ナバンガ ピキニニ友好協会』を立ち上げるに至ったのは、2015 年 5 月、バヌアツ共和国を襲った未曾有のサイクロン「パム」だった。被害は甚大で、特に子どもたちが苦境に立たされている事を知り、『民話集 ナバンガ ピキニニ』で支援金を作ることを考え、神戸南ロータリークラブから「ナバンガ ピキニニ」日本語版を刊行する資金を得て、神戸新聞総合印刷で印刷、販売活動を開始した。翌 2016 年 9 月 23 日、1500 部の収益 233 万円をバヌアツ・ポートビラ ロータリークラブを通じて被災児に届けた。

このサイクロン「パム」被災児救援の民話集を日本で刊行したことから、2016 年 10 月本会を発足させた。

バヌアツは、2006 年イギリスのシンクタンク、ロンリープラネットから「世界一幸せな国」に選ばれた。そこから「本当の幸せとは」というテーマを中心に、なぜ「バヌアツの人たちはしあわせなのか」を、深掘りし、講演会、写真展、児童画展など精力的に開催し、現在に至る。写真展も東京都立図書館での 2 回の開催を含め、北は福島から南は福岡、2022 年は、バヌアツ人留学生のいる徳島県鳴門市、三重県津市でも開催し、29 回を数える。本会のテーマは、「バヌアツと日本 子どもと子どもをつなぐ」であり、日本の子どもたちがバヌアツの子どもたちから学ぶことにある。

バヌアツ共和国は、2020 年 12 月後発開発途上国から開発途上国に抜け出した国であり、観光業以外これといった産業もなく、2020 年、新型コロナウイルスの世界的な流行による国境閉鎖、その帰結として観光客の激減に加え、2020 年 4 月のサイクロン「ハロルド」による被災等を受け、経済は大きな打撃を受けた。国境は 2022 年 7 月再開されたが、観光客が、戻ってくるには時間がかかる。バヌアツは資源もなく、決して裕福な国ではない。

在バヌアツ日本大使館は、2020 年 1 月まではフィジー大使が兼務していたが、特命全権大使が赴任。それに対して在日本バヌアツ大使館は現在もなく、在日バヌアツ人数は 5 名(2022 年 10 月現在)、主に留学生のみである。

JICA 関係では、過去実績でバヌアツ派遣海外協力隊員数は 327 名(うち女性 188 名)を数える。本会がつかんでいる数字では帰国隊員の約 30 名が現職の教員であり、彼ら彼女らと共にバヌアツと日本の子どもをつないでいきたいと考えている。バヌアツ紹介の全文ルビを振った副読本(小冊子「バヌアツってどんな国」)も、兵庫県国際交流協会の助成をうけて 2000 部作成、小学校への出前授業で子どもたちに配布している。

2017 年 8 月本会初めて催行したバヌアツツアーには、小学生 2 名を含む 13 名が参加し、日本の子どもたちに、電気ガスの無い生活を体験してもらった。帰国後夕暮れ時に電気をつけようとした祖母に「電気をつけないで、もう少しバヌアツを楽しんでいたい」という言葉に、子どもの感受性の大事さを学んだ。澄み切った海で、色とりどりの魚と泳ぎ、砂浜を思いっきり駆ける手つかずの自然と、ゆっくりと流れる時間の中に身を置くことで日本のことがよく見えてくる。バヌアツの子どもたちとの交流体験は、子どもたちの大きな財産となるだけでなく、世界に目を開いた若者の成長につながる。そんな子どもたちが、これからの日本を良い方向に導いてくれると確信し、そんな子どもを育てたいと本団体は活動に取り組んでいる。

これまでのバヌアツでの自身の経験を日本社会にどう還元するかが一つの課題であった。バヌアツ赴任中も月に一度、「バヌアツ通信」を発行してバヌアツを紹介するなど、バヌアツと日本をつないできたが、あくまでも写真、児童画の媒介であり、対面で子どもと子どもがつながることが出来ず、お互いの笑顔がつながる場を作ることが悲願であり、その解決策が、過去の経験、いままでの人脈を生かして、バヌアツサイドに、インターネット交流授業のためのプラットフォームの設置であった。

1-2 所属団体や NGO が持つ課題及び課題解決方策の分析

本会設立後 7 年目に入りパンデミックで、写真展の会場確保、出前授業の機会は減ったが、会員数 126 名を擁し、漸減ではあるが新規加入者もいる。出前授業、写真展、児童画展に加え、今回本格的にバヌアツの子どもと日本の子どもを顔と顔でつなぎたいと考えた。会員数プラス会員予備軍を含めて、200 名ほどの人たちの中には現職教員もあり帰国後の元隊員は日常の業務に追われて、バヌアツと Zoom でつなぐ環境にいない人もいるが、Zoom を通じて、バヌアツとつなぎ今回の活動をテコに新たな組織拡大、子どもたちの交流を目指していく。

2 本文

2-1 受入機関の概要

今回の研修において、以下の2校にてオンライン交流事業の協力をいただいた。

① ヴィラ SDA 小学校

首都ポートビラ、エファテ島にあるヴィラ SDA 小学校は、幼稚園から6年生までの396人の生徒が在籍し、フランス語教員1名を含む11人の教員がいる。キリスト教系の小学校。現在、算数教員を鳴門教育大学の算数の留学生として送り出しており、その縁で今回協力校をお願いした。

② サント イースト小学校

エスプリッツ・サント島はバヌアツ最大の島で、中心はルーガンビル。第2次世界大戦中、南下してくる日本軍に対し、米軍の前線基地が築かれ、1942年10万人の兵士を受け入れる巨大基地となった島。今も往時のかまぼこ兵舎や滑走路が残る。サントイースト校は、2018年4月西宮市北部図書館の子どもたちと絵の交換を行った学校で、生徒数は幼稚園が約100名、小学校約1000名、中学校約1000名のマンモス校、先生数は幼稚園6名、小学校27名、中学校が約50名、英語系の学校で週2回フランス語の授業を行っている。

2-2 研修内容

- ① 首都ポートビラの VilaSDA 小学校と東京都府中第一小学校とオンライン交流授業
- ② サント島サントイースト小学校と多摩桜の丘学園とのオンライン交流授業
- ③ バヌアツ写真展用の写真パネルのリニューアル、PPT作成用

① 首都ポートビラの Vila SDA 小学校と東京都府中第一小学校とオンライン交流授業

ヴィラ SDA 小学校でアンドリュウ校長にあいさつ、校長室の Wi-Fi が使える事を確認。SDA 小学3年生のクラスに加わり、子どもと友達になること、学校の雰囲気になれることに努める。校長アンドリュウは気さくな人で、写真撮影の許可はじめ全面的に協力をいただいた。

ヴィラの Vila SDA Primary school の3年生33名、東京都府中市立第一小学校3年生161名を Zoom で結び、今回の研修テーマである「オンライン交流事業」を実施。Vila SDA Primary school の担任は2012年に南太平洋教員研修で日本に来ており親日的であった。

SDA には、バヌアツ側のサポートとして、元日本留学生、北海道に在住歴のあるメンバーが来て下さった。彼らは IT に強く、集音マイク、Zoom 用カメラを持ち込んで機器をセット、おかげでスムーズに Zoom を繋ぐことができた。府中市の小学校とは、前々日から機器の調整、当日の会場を使ってハウリングなどのテストを行った。IT に強いサポーターのおかげで、音声の調整に最初5分ほど時間を要したが、その後は問題なくスムーズに授業が行われた。

府中市内の小学校からは元協力隊 JOCV 小学校教諭の教員と他同校教員 4 名が参加し、教員によるファシリテーターで授業を開始し、ビスラマ語(現地語)、日本語による挨拶交換に始まり、日本の子ども「スポーツは何が好きですか?」「放課後はどんなことをして遊びますか?」との質問にバヌアツの児童も名前を告げてから「サッカーが大好きです。」「鬼ごっこをします」と答えていた。質問の内容は誰でも答えやすいもので、ちょうどよかったと思う。SDA の子供たちの質問に、答えたかったという日本側の子供が大勢いたが、人数が多く、すべてに話させてあげられなかったのは、今後の課題となった。

この Zoom オンライン授業には、SDA の現役算数教員、現在鳴門教育大に留学中の学生も参加し、彼からは、「全体的に、良かった。2つの学校間の生徒の参加姿勢は活発だった。」とのコメントをいただいた。

Zoom オンライン授業を終えてからアンドリュウ校長にインタビューを実施した際、2022 年 1 月に本会が開催した市立鳴門図書館でのバヌアツ写真展の情報が、校長先生に逐一報告されていて、今回の Zoom による交流事業開催がスムーズに進められた。本会ではこれを機会に今後もオンライン交流を計画、今後の展開に関しても賛同と協力をいただいた。また、日本側からの依頼があり、A4 サイズの絵手紙を児童に書いてもらい持ち帰ることで、今後の交流の種が播かれた。当日は府中市教育委員会指導主事が見学に来て、ぜひ、この交流を継続してくださいと激励を受けた。

② サント島サントイースト小学校と多摩桜の丘学園とのオンライン交流授業

SDA での Zoom 授業の翌日、サント島に移動する予定だったが、代理店 STW からフライトのキャンセルが入り、後続便もいつ飛ぶかわからないとの連絡を受け、サント島行を中止。サントイースト小学校のドミニク・マフリ校長と話の結果、Zoom でサント島、首都ポートビラ、東京都立多摩桜の丘学園と結んでのオンライン授業に切り替え実施した。

2 回目のオンライン交流授業は、東京の特別支援学校多摩・桜の丘学園の小学部 5 年 2 名、中学部 1 年 2 名、高等学部 2 年 8 名の計 12 名と、サント州ルーガンビルのサントイースト校の 6 年生 42 名が、初めてズームでつながった。教師のローリー・マシンナウ、校長のドミニク・マフリ、2 名の IT チームに通訳としてサント島在留邦人グリーンまゆみが加わった。日本からは生徒による学校紹介、サントイースト校も学校紹介に始まり、バヌアツと日本の生活について質問し合った。最後に日本からは「ハレルヤ」の合唱、バヌアツからは「Jesus is the sweetest name I know」の交換。わずか 40 分という短い時間だったが、両校生徒にとっては目を見張るような時間だった。

グリーンまゆみが動画も撮影、校長の FB へのアップの許可も得て、多くの方に視聴いただいている。サントイースト校は、今後もこのイベントを企画していきたいと継続を期待。授業開始まで、桜の丘学園に英語の出来る人がいないので、進行を危ぶんだが、グリーンまゆみの通訳で、極めてスムーズに進み、生徒たちからは、「とても楽しかった!」、「またやりたい」、「次は英語で質問したい」、「ゲームやってみるとか」などのワクワクす

る感想が届いた。鳴門から参加した留学生からも「とても良かった。質問も活発で、最後の曲の交換も素敵だった」と感想があり。教師ローリー・マシナウからは、「今日は子どもたちに新しい経験をありがとうございました。通訳をしてくださったまゆみさんに感謝します。生徒たちは本当に楽しかったです。私たちの初めての経験であり、次回はもっと素晴らしいものにしたいと思います。」とコメントをいただいた。

桜の丘学園の先生からも「こちらの生徒たちからは、感想などを英文で伝える話が出ています。英語の時間に取り組みます。2週間ほどお時間ください。最後の歌はとても良く聴こえました！みんな聴き入ってました！言葉がわからなくても気持ちが伝わってきますね。音楽は国境を越える、を体験できました。」とコメントをいただけた。

ローリー・マシナウからは「本校を選んでいただいたことに感謝します。初めての経験に感謝します。来年も続くことを願っています。」と感謝の言葉が寄せられた。サントの生徒たちは「英語が通じた」「英語が聞き取れた」と英語の学習をリアルに体験していただくことが出来た。第1回、第2回のインターネット交流授業で様々な人と一緒に仕事を行うことで、多くの事を学ばせていただいた。

③ バヌアツ写真展用写真パネルのリニューアル、PPT作成用写真・動画撮影を行った。

4月一杯西宮市ストリートギャラリーで開催予定の第3回バヌアツ写真展「学校と学校Zoomでつなぐ」展示用の写真撮影を行った。

今回の研修全体を通して

SDA 小学校のアンドリューとは、今後も日本の小学校の交流を続けることを双方で確認できており、バヌアツから持ち帰ったこどもたち絵のお礼として、府中第一小学校のこどもたちの絵手紙160枚(5冊子)が、コロナの影響で郵送できなかったが、間もなく発送される。これに先立ち姫路市内の小学校のこどもたちの絵もサントイースト校に送られた。

JICA バヌアツ支所のバヌアツ人元留学生で組織する同窓会のメンバーも本会加入を表明、現在鳴門教育大、関西学院、三重大学に留学中のバヌアツ人学生もすでに本会に入会し、活動を大いにバックアップしてくれている。鳴門教育大のケンシーは、3月末で帰国予定で、本会のバヌアツ支部立ち上げを期待のまなざしで見ている。

ポートビラのNabanga Pikinini委員会とは昨年10月千葉広久大使も交えて会議を持っており、協力体制が出来上がっている。委員会にはレーゲンバヌウ環境大臣もいて、既にバックアップ体制もできている。

2024年には、子どもたちと一緒にバヌアツツアーを催行したいと考えている。今回の訪問で教育省も訪れたが、担当は海外出張に出ており、会うことは叶わなかった。小国であるがゆえにマンパワーが足りず、政府関係の要職者は海外での会議に本人自身が出席しなければならないケースが多い。JICA バヌアツ事務所、バヌアツ大使館とは、太いパイプをつくることができた。

3. 考察・提言

3-1 結論

VilaSDA 校での実施結果とサントイーストの実施結果を踏まえて、バヌアツ・日本を結ぶ Zoom によるインターネット交流授業についての考察を述べる。

当初、不安に感じていたネット環境に関しては、サント島ルーガンビルやポートビラの都市部では全く問題はなく今回 SDA では、元日本留学生のような IT に強い人がサポーターに入り、サント側では2名の IT に強い人によるサポートがあり問題なく進められた。通訳はポートビラとサントではそれぞれ日本語の流暢な方にお世話になった。今回の研修を通して、ヴィラ SDA 校でも、サントイースト校でも今後も継続して、実施したいとの要望をいただいている。バヌアツと日本の時差は2時間であるため、日本時間の9時台に授業を行うことで、バヌアツ授業時間の午前中に実施することができる。ただ、学校の授業時間は、サポーターが、各自仕事を持っているので、今回のように、こちらが休暇取得をお願いして実施が可能となったことも特記しておきたい。今後は十分に準備時間を取って実施すれば、運営方法を改善しながら今後も Zoom によるインターネット交流授業が出来るということがわかった。今回のプログラムの参加者には本会の目的とする日本とバヌアツ、子どもと子どもをつなぐ素晴らしさを共有することができた。

3-2 本研修の結果を、ナバンガ・ピキニニ友好協会における今後の活動にいかに関与してしていくのか、組織強化につなげるのかと今後の発展への展開

Zoom による交流アイデアは2020年1月発生したコロナパンデミックに端を発し、日本で、児童は学級閉鎖により、タブレット支給による学習が取り入れられた。一般社会でも Zoom による会議が国境を越えて始まった。本会では2021年1月バヌアツと日本を結んで、バヌアツ経験者・元日本に留学した人を中心とする Zoom 会議「Toktok Vanuatu」(バヌアツを語ろう)を初回とし既に7回開催、2021年12月多摩桜の丘学園とバヌアツの元日本留学生をつなぎ、Zoom 会議を開催、これが、今回の NGO スタディプログラムの応募の第1歩となり、その延長上に今回のインターネット交流授業が実施された。

今回の研修を通して研修テーマである「日本とバヌアツ、オンライン交流授業のプラットフォームの立ち上げ」を実現することができた。

本会の会員の中に元 JICA ボランティア・バヌアツ教職隊員がおり、帰国後復職し、バヌアツ紹介や民話集「ナバンガ・ピキニニ」の読み聞かせをしている人もいるが、その数はわずかだ。日本の小学校学習指導要綱の小学生授業に今回実施したインターネット交流事業を導入するには厳しいものがあるが、今回ご協力いただいた小学校のように授業の中に国際交流を取り入れるところも出始めており、少なくとも今回の成功で今後の展望が開けてきたと考える。出前授業は今までも開催しており帰国後の2022年12月16日には兵庫県姫路市内の小学校5年生100名に対する出前授業を実施、子どもたちに大きな反響をもたらした。スライド中にバヌアツと日本の子どもが「ビンゴ」を合唱する動画があるのだ

が、その動画が始まると姫路市大津茂小学校の児童が自然発生的に二校の「ビンゴ」の合唱の輪に入って行った。これが本会の望む『バヌアツと日本 子どもと子どもをつなぐ』である。スライドには今回の研修で収めた写真と動画を使用した。

今回のスタディプログラム応募の時点で、『バヌアツ国際理解チーム』を結成して教員たちと情報の共有、会としてのプログラムの進め方など論議してきた。10月末現在のチームメンバーは理事も含めて11名。このチームを中心に、元JICA教職隊員に、オンライン交流授業の開催を呼び掛けていく。バヌアツに育ててもらった元バヌアツ隊員、日本で学んだバヌアツ元留学生がコアメンバーとなって、この事業を発展推進させて行く。元バヌアツ留学生の同窓会が、本会の会員として入会してくれることが決まっている。

また、今回の研修ではJICAバヌアツ観光隊員として赴任時代の同僚3名と15年ぶりに再会し、その中には、現在バヌアツ観光局のトップもあり、以下を提供いただいた。

1)ナバンガの出版物や日本でのプロモーション目的で利用できる新しい目的地のブランドイメージ、2)友好協会を使って良いビデオ、3)観光局が持っているブランドポストカードのサンプル、4)ポスター。また、2006年から2008年のバヌアツ滞在中に20以上の島々を訪れ、バヌアツについて各地の知識を持っている私自身と共に働きたいとのメールが届き、バヌアツ政府観光局の日本側窓口としての道が拓かれた。今後協力して、バヌアツの日本への浸透をはかりたい。

3-3 テーマに関する日本の国際協力分野に対する提言

ケニアで現地農業従事者と一緒に Alphajiri Limitedw を立ち上げた女性、一般社団法人A-GOAL を立ち上げた男性がいる。彼はバヌアツに来て海外での活動に目覚め、協力隊に応募、ケニアの少年院の先生の後帰国、A-Goal を立ち上げた。二人は果敢に事業に挑戦し組織の拡大、事業の拡大を計っている。いずれも立ち上げのための資金調達に苦労しながら、がんばっている。JICA 協力隊は、世界各地で文化や習慣だけでなく、安全面や生活水準など日本とは全く異なる国での活動経験をもつ貴重な国際協力の若者たちである。国際協力分野の貴重な人材でもある。本会は元バヌアツ隊員と、バヌアツ人日本留学生をZoom 会議「Toktok」でつないで交流を深めるだけでなく、日本語、英語による季刊紙「ピキニニ通信」を発行、無料のPDFで世界に発信している。隊員は、今日のグローバル社会では貴重な人材だ。こうした帰国隊員、海外に嫁いだ人たちの経験を日本社会に還元する機会を支援していただきたい。多くの隊員、政府の言う「外交資産」が経年と共に劣化霧消して行っているように感じるため、ぜひ帰国隊員の活躍できる環境を醸成していただきたい。

また、活動の報告にてインターネット交流授業での撮影画像を掲載する際、日本サイドの学校から掲載不可の申し出がある。本会の目的は子どもと子どもをつなぐことであり、子どもの交流を通じて、日本の社会を変えて行きたいとの願いが根底にある。バヌアツ側

では事前に Zoom での授業風景や校内の写真撮影に許可をいただいていたため、日本側の学校現場にもそうした理解を得られるように働きかけを行っていきたい。

4. 団体としての今後の取り組み方針

今回のオンライン交流授業の日本側プラットフォームを 3 月末までに整備確立する。日本とバヌアツ両国に設置されたプラットフォームを通じて「バヌアツのものの豊かさでないほんとうのしあわせ」を学べる機会を提供していく。

先ず地元兵庫県西宮市の小学校で、バヌアツ研修を通して得た現地の生活内容について出前授業を実施し子どもたちに伝えていく。既に事業名を「出前授業『バヌアツの子らはなぜ世界一幸せなんだろう』』として、西宮市教育委員会に話を伝えている。JICA 関西の後援も取得予定である。既に前述の昨年 12 月姫路市内の小学校で出前授業を行った子どもたちから「ゆうふくでなくても幸せになれるんだとわかった。逆にお金がないから島の人や家族と助け合えて仲良くなれるんじゃないのかなと思いました」との感想が寄せられている。この出前授業を継続・拡張していき、高学年児童には英語によるバヌアツ児童とのネット交流授業に発展させていく。

今回、SDA の子どもたちの絵を持ち帰ったことにより、府中市内の小学校でも絵手紙 160 通を書き終えて、発送の準備に入っている。SDA 小学校、サントイーストとのオンライン交流授業を継続していく。

また、元 JICA 青年海外協力隊員で現職教員の参加を促し、若返りも念頭に置く。バヌアツ側にオンライン授業に必要なプラットフォームができた今、現存の『バヌアツ国際理解チーム』を日本側のプラットフォームとして機能させていく。今回の研修で実際にバヌアツにおいて子どもたちに接し、授業に参加・オンライン交流授業を成功させたことで、インターネット交流授業事業に確信が持つことが出来た。

5. その他

5-1 本プログラムや事務局側に対する提案・要望等

JANIC のコーディネーターの方々のきめ細かいご指導で、無事大役を終えることが出来感謝している。

5-2 写真類及び研修員が受入先機関に提出した報告書類等があれば、添付

資料 1 バヌアツ側プラットフォームのサポーターに対する報告書(英文)

資料 2 「ピキニニ通信第 25 号」

資料 3 「ピキニニ通信第 25 号」(英語版)

資料 4 使用した写真 下記 6 枚

① ヴィラ SDA 小学校



SDA 小学校での筆者の PC 画像 (14Dec2022)



画面に映ってるのは府中第一小学校 撮影：仲誠一



② サントイースト小学校



サントイースト校 撮影：グリーンまゆみ



27. 2022

Vanuatu Nabanga Pikinini Friednship association

Represetative: Seiichi Naka

NGO STUDY PROGRAM REPORT

Establishment of a platform for online classes between Vanuatu and Japan

This report is a memo to those who have been supporting us on the Vanuatu side.

1 Overview of Host Schools

① Vila SDA Primary School

Vila SDA Primary School on Efate has 396 students from kindergarten to grade 6. There are 11 teachers, including a French teacher . This is a Christian elementary school in Port Vila, the capital of Vanuatu. Currently, the maths teacher Mr.Kency is studying at Naruto University of Education in Japan as a math exchange student. We have asked Vila SDA school to cooperate with us through Mr. Kency.

② Santo East Elementary School

There are about 100 kindergarten students, 1,000 elementary school students, and 1,000 junior high school students. There are 6 kindergarten teachers, 27 elementary school teachers , and about 50 junior high school teachers. This is an English-language school with French classes held twice a week.

2. Training contents

① Oneline exchange Classes with Vila SDA Elementary School in Port Vila, and Fuchu Daiichi Elementary School in Tokyo Japan.

② Online exchange class between Santo East Elementary School in Santo and Tama Sakuranooka Gakuen in Tokyo Japan.

I October 14th 2022

Online exchange class with Vila SDA Elementary School in Port Vila and Fuchu Daiichi Elementary School in Tokyo

33 students of 3rd grade from Vila SDA primary school (396 students in kindergarten, 1st to 6th graders) and 161 students of 3rd graders from Fuchu Daiichi Elementary School in Tokyo were connected by Zoom. The theme of this training was, *“Online exchange class”*

At the Vila SDA site Mr. Mark Vurobaravu , a former Japanese exchange student, Mr. Nicky Evans, and Elizabeth (Ms. Malitu Mokoroe) supported us. Mr Evens is well skilled in IT, and brought a sound collecting microphone and a Zoom camera and set up the equipment.

Thanks to Mr. Evens, it only took about 5 minutes to adjust the audio then after that the class went smoothly.

Ms.Akiko Hara, a teacher from Fuchu Daiichi Elementary School (former JICA Vanuatu Education Corps) and four other teachers from the same school participated. Children from Vanuatu answered the questions,

- "What kind of sports do you like?" and
- "What do you do after school?"

The content of the question were easy for everyone to answer, and I think it was just right. Many sutudents from Fuchu Daiichi wanted to answer the SDA studentnt's questions, but there were too many and we were unable to give them all a chance to speak .

The mathematics teacher at SDA, Mr Kency, who is currently studying at Naruto University of Education, also participated through zoom.

After completing the Zoom meeting with the classes, we interviewed Principal Andrew John. Mr. Kency reported to the Principal about the information on the Vanuatu photo exhibition held by the Association in January 2022 at the Naruto Municipal Library.

- a) Future plans: This online internet class was held smoothly. Taking this opportunity, we are hoping to continue online exchanges in the future, and we have received support and cooperation for future developments. I have received a request from Ms.Akiko Hara of Fuchu Daiichi asking the Vila students to draw an A4 size picture letter for the Fuchu Daiichi students. This was done and Mr Seiichi brought them back to Japan. On the same day, the 14th, the instructor of the Fuchu City Board of Education visited the site and encouraged us to continue this exchange. The seeds of future exchanges were sown.
- b) For improvement: I do not know if the students in Vanuatu were informed about the activities in advance, but apparently the Japanese students studied today's activities in advance, whereas the students in Vanuatu did not seem to have been told enough about what to do. We should consider this point for the next time.

II October 15th 2022

Online exchange class between Santo East Elementary School and Tama Sakuranooka Gakuen

The day after the Zoom class at SDA Mr. Seiichi was planning to move to Santo Island, but the travel agency STW informed me that the flight was canceled and that the next flight mighnt operate or not – flight times in Vanuatu are uncertain. Mr.Seiichi decided to cancel the trip to Santo Island and switch to online classes using Zoom between Santo Island, the capital Port Vila and Tokyo Tama Sakuranooka Gakuen.

Tuesday, October 18th 2022

The second online exchange class was held with a total of 12 students from Tama Sakura no Oka Gakuen, a school for children with disabilities in Tokyo. Forty two 6th grade students from Santo East School were connected for the first time via Zoom .

Present in Santo were: principal Dominique Mahuri, teacher Ms.Roline Masingnau and an IT team of two. Ms.Mayumi Green, a Japanese resident of Santo Island, helped as the interpreter. In Japan the students introduced the school. Likewise the Santo East school also started with a school introduction. They exchanged questions and answers about life in Vanuatu and Japan. Finally, Japan sang "Hallelujah" and Vanuatu exchanged "Jesus is the sweetest name I know." Although the zoom meeting was short (only 40 minutes)it was an eye-opening time for the students of both schools .

The Santo East School hopes to continue planning this event in the future. With Ms.Mayumi Green's help interpreting, everything went very smoothly, and the students gave us exciting comments such as, "It was a lot of fun!" . Mr. Kency who joined from Naruto was also said it was a very good experience. The questions were lively, and he commented that the exchange of songs at the end was wonderful.

Teacher Ms. Roline Masingnau concluded by saying, "Thank you for giving the children a new experience today. I would like to thank Mayumi-san for translating. The students really enjoyed it. It was our first experience, I would like to make it even more wonderful next time. The last song sounded so good! Everyone was listening! Even if you don't understand the language, you can feel the emotion. I was able to experience that music crosses borders.

Thank you for choosing our school. Thank you for your first experience. I hope it will continue next year."

Mr. Seiichi Naka was pleased that he was able to work with many people in the 1st and 2nd Internet Exchange Classes commenting that he also learned a lot.

III Conclusion

Regarding the internet environment, which I initially felt uneasy about, there are no problems at all in the urban areas of Luganville on Santo Island and Port Vila on Efate Island. This time, at Vila SDA, a person with proficient IT skills, such as Mr.Nicky Evans, a former international student in Japan , joined as a supporter, and two people with strong IT skills supported Santo East from the beginning. Both meetings proceeded without problems.

The interpreters were Elizabeth (Ms.Malitu Mokoroe), who was fluent in Japanese, in Port Vila, and Ms.Mayumi Green, a Japanese resident in Santo.

Both Vila SDA School and Santo East School have received heartening support that they would like to continue this in the future. The time difference is 2 hours, and if classes are held between 9:00 and 10:00 Japan time, they will be within the morning of Vanuatu class time.

However, it should be noted that the supporters have their own jobs during school hours, so we were able to ask them to take leave. From now on, if we have enough preparation time and implement it, we can see that future Internet exchange classes by Zoom will be possible.

1V. How will the results of this training be utilized in the future activities of the Vanuatu Nabanga-Pikinini Friendship Association?

In January 2021, the association connected Vanuatu and Japan to hold a Zoom conference “Toktok Vanuatu” (Let's talk about Vanuatu) for the first time with those who have experienced Vanuatu or international Vanuatu students who have studied in Japan. Numerous meetings were held between then and December 2021 when a Zoom meeting was held to connect Tama Sakuranooka Gakuen and former International students from Vanuatu. These were the first steps in applying for this NGO STUDY program, and as an extension of that, this Internet exchange class was held. Thus the theme of the training, "Japan and Vanuatu, launching a platform for online exchange classes" was started.

As this exercise has been so well received by all participating Mr. Seiichi Naka concludes by saying that it will be good to continue such interactions whenever possible between schools in Japan and Vanuatu as well as students that have studied in Japan and ex JICA volunteers.

Finally, the success of these online exchange classes would not have been possible without the supporters

- in Vanuatu and Japan. We would like to express our deepest gratitude to those that supported the project and helped towards the success of the project. We look forward to your continued support.

and funders

- The Japanese Foreign Affairs who funded the project under their program which aims to strengthen the ‘Japanese organisation of international cooperation NGO’s through human resource development’.